

黎明

題字は、校歌（玄閣掲額）より



令和4年 5月23日（月）

修学旅行を終えて（報告と御礼）

先週、三年生は、修学旅行（静岡・山梨方面）に行つてまいりました。生徒たちは、二泊三日の行程において、規律正しく、配慮のある行動ができたと思えます。その姿に、校長として、本校OBとして、誇りを感じました。

今回の旅行では、二日目にしてやっと姿を現した富士山の圧倒的な雄大さに畏敬の念を覚えつつ、サファリパークや富士急ハイランドで楽しい時を過ごすことができました。

また、リニア見学センターでは、最先端技術の一端に触れたり、富士五湖周辺でカヌー・ワカサギ釣り・クラフトワークなどの貴重な体験学習をしたりすることもできました。

また、一日目の夜には、富士山で環境保全や救助活動を行っている方を講師としてお招きしました。講話の中には、人間としてのあり方や生き方を問う視点もあり、進路選択が目前に迫っている生徒たちの心に深くささるものがあったように感じました。この旅行が楽しさだけでなく、生きるうえでの価値観に影響する思い出になったと確信しています。

コロナ禍の中、さまざまな制約もありましたが無事に修学旅行を実施することができました。これも偏に保護者の皆様方のご理解・協力によるものと、心より感謝申し上げます。

学校ホームページ「日誌」から

みんなで考え「納得解」を

二年生社会では、資料をもとに「太閤検地や刀狩によつて百姓は楽になったか？」という論点で話し合っていました。「戦わなくてよくなった」という見方もあれば「一揆をおこせない」という意見もありました。視点のあて方に個性が垣間見えました。

一年生は、松の種を空中に放り投げてその落ち方を観察し、種の形状が羽のようになってきている意味を理解することができました。それだけでなく、物言わぬ植物の意思をそこから読み解き、まさに「納得解」を得られたのではないかと感じました。

三年生は、外国の学校について書かれたテキストを読んで質問に答える練習に取り組んでいました。肝心なのはどう適切に表現するかです。その答えは一通りではなく、簡潔な答え方や丁寧な言い回しなど、いくつもの「正解」がありました。

言葉や時をこえた学び

今日は、一年生が派遣英語指導員のネイティブそのものの英語で語る話を聞いて、笑ったり、うなずいたりしている姿を見て驚きました。スクリーンに映し出されているアニメのキャラクターが共通の言語となり、わからない言葉を補完して理解を広げようです。文化は言葉をこえると感じました。

二年生道徳では、節度・節制にかかわり、「お金では買えないもの」「生きたお金の使い方」をテーマに話し合いました。一人一人の素朴な疑問や考えを大事にして「考え・議論」することによって、お金についての新たな価値や考えに出会い、学びを深めることができました。

感性や思考を働かせて

三年生は、霊長類学者である筆者がゴリラを通じて書いた論説文を読み、感想を書いています。初発にもかかわらず、筆者のものの見方・考え方を受け止め、社会の動きや身近なことと関連付けた感想も出されています。さすがが最上級生。今後のさらなる深まりが楽しみです。

一年生音楽では、タブレットにイヤホンを差し込んで音楽に聴き入っていました。コロナ禍の中で制約を受ける日々が続く、心おきなく歌える日が待ち遠しいことだと思えます。その時が来るまで、思いをいかに言葉にして曲にのせ伝えるか、想を練ってほしいと思います。

二年生家庭は、和服と洋服を比較して違うところをみつけていました。着物を着る機会が減り、帯や紐といったもなかなかピンと来ない現実もあります。実物を前にしてあれやこれや意見を出し合いながら、それぞれの機能やよさについて考えを深めました。

この「日誌」欄を通じて、日々の様子をトピックスに所感を交えてお伝えしています。同時に本校が目指す教育についての情報発信となることを願っております。本校長室だよりと併せてご一読いただければ幸いです。

話は変わりますが、先日、保護者・地域の方々から本校生徒が危険な自転車乗り方をしていたケースを何件かお知らせいただいております。暖かく見守っていただきありがとうございます。学校でも引き続きしっかりと安全指導を行ってまいります。今後とも、お気づきの点がありましたら「一報頂きますようお願いいたします。」

